

瑞浪市立陶小学校

お囃子を通して育む

ふるさとへの愛着と誇り

学校・地域の実態

本校の校区陶町は陶器産業が盛んな地域であり、嘗ては人口も多く活気溢れた豊かな町でした。百数十年の由来がある町内のお囃子は、猿爪、水上、大川のそれぞれの地区で青年団を中心に守られ、祭りを活気づけてきました。近年、陶磁器産業の衰退に伴い、人口の減少が進んでいます。この状況をなんとかしようと街づくりの推進協議会を中心に「世



陶町ご当地キャラ「すえっ子」



夏祭りでお囃子を披露する子ども達(水上)

界一の狛犬」「世界一の茶壺」「与左衛門窯(登り窯)」「ご当地キャラ」「すえっ子」などをつくっていく活気ある町づくりの機運を地域社会で高めようとしています。

こうした地域の人々の願いを受け、本校では教科や総合的な学習において地域学習や体験学習を進め、地域行事に参加し、地域に貢献する姿勢をもつ子どもを育てています。



- 住所 7509-6362 岐阜県瑞浪市陶町水上 664-8
- 電話 0572-65-2029
- メール suesho@city.mizunami.lg.jp
- HP <http://suesho.city.mizunami.gifu.jp>
- 生徒数 148名 (H25. 5. 1)
- 学級数 7学級

伝統をつげつぐお囃子

お囃子は、日本古来の伝承音楽であり、神社に伝わる文化です。昭和五十四年には「お囃子保存会」が結成され、各地区ごと(猿爪、水上、大川)に大人から子どもに伝えられるようになりました。また、猿爪、水上地区は、伝統文化子ども教室として、文化庁や岐阜県文化財団の助成を受けています。

伝承されているお囃子は、それぞれの地区で特有な形となっており、横笛、和太鼓のリズムに特徴があります。猿爪区のお囃子は、岡崎の天神社から伝わり、優雅なテンポのゆっくりとした短調のふしで、おそらく京都の公家や宮様の行列に合わせたリズムと思われれます。水上・大



川地区のお囃子は、中馬街道沿いに土岐市曾木を通して伝わり、勇壮で力強いリズムと言われています。

各地区の「お囃子保存会」では、小学生を集め公民館で指導しています。保護者も子どもの頃にお囃子の演奏経験があり、音の出し方を親から子どもへと伝えている家庭もあります。指導者の熱意や保護者の見守りに支えられお囃子は現在も伝承されています。

学校では各地区での活動の様子を集会や授業、学校報等で紹介し、地域の伝統・文化を継承することの大切さを子どもへ指導しています。

ふるさとの誇りお囃子を伝える

お囃子保存会

それぞれ
の地区の特
有なお囃子
を伝えるた
めに、各地区
のお囃子保
存会の方が



お囃子保存会指導の様子

指導者となり活動をしています。練習の始めは、正座をして指導者にあいさつをし、お話を聞いた後、和太鼓や横笛などに分かれ練習を重ねています。

・夏祭りや神社大祭にむけて練習スケジュールをたてる。

・あらかじめ笛を配布し、保護者が家庭でも教える。

このように地域の保存会と家庭とが連携して活動しています。また、お囃子保存会では、幟をつくる、横笛・ばち・和太鼓を新しく購入する等、伝統を錆び付かせない工夫もしています。その思いは伝わり、子ども達も真剣に練習に取り組んでいます。その成果は、祭りや陶町文化祭でお披露目をし、発表されます。

伝統文化子ども教室

指導者の願い

京都の五条の橋の上で、大男の弁慶を美少年の牛若丸がこらしめたときに吹いていたのが横笛です。その、竹の横笛がふけます。練習するのは、日本古来の伝承音楽であり神社に伝わる文化です。百数十年前に岡崎から伝わり、現在まで伝わっています。七月の祇園祭や秋の天神祭で、子ども囃子が参加することで大変にぎやかでした。人口が減少している中、このような行事を伝えていくのは大変ですが、伝統あるこの祭りを後世に是非伝え、残していきたいと思っています。昨年度は瑞浪市



お囃子練習をする子ども達（猿爪区）

青少年育成団体のモデル団体として表彰をつけています。文化庁からの助成もいただいています。

練習の成果と感謝の気持ちを

笛の音のせてとどける

五年 児童の思い

私は今年二年目のお囃子です。保存会では、笛のテストがあります。私は四年で受けていないので、五年生のテストに合格できる自信がありませんでした。それで家でお母さんと一緒に練習しました。そして、合格できました。テストに合格してからは六年生の太鼓に合わせ笛を吹く練習をしました。練習を毎日重ねていくうちに去年は間違えていた部分ができるようになりまし

た。そのときにはとてもうれしかったです。全部が吹けるようになってからは、息つぎのタイミングに気をつけて練習しました。正しい所で息つぎをするのは難しかったです。

こんな練習を続けていくとまた新しい課題が生まれてきました。それは、「大きな音を出してふく」ということです。今年子どもが少な



夏祭りでお囃子を演奏する子ども達（大川地区）

く十三人しかいません。それに六年生の三人は太鼓で、笛はわずか十人です。五年生は下級生をひっぱるような音をしっかりと出すことが大切です。だから、大きな音が出せるようたくさん練習をしました。大きな音が出せるようになったとわかったのは、私たちが住む地を見下ろす天狗岩に登って吹いたときでした。十三人で天狗岩の横で出した音は、二号の公民館までよく聞こえたそうです。本番では、練習の成果はもちろん、自分の時間を割いてまで教えてくださる笛や太鼓の先生方に感謝の気持ちをこめ、地域の方に喜んでいただけるように演奏をしたいです。